

## 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

— 平成 1 2 年 7 月 調査結果 —

( 平成 1 2 年 8 月 1 日 )

○ 調査期間 : 平成 1 2 年 7 月 1 9 日 ~ 2 6 日

○ 調査対象 : 全国の 3 9 5 商工会議所が 2 6 6 3 業種組合等にヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 9 3 製造業 6 4 8 卸売業 2 4 5  
小売業 7 6 5 サービス業 6 1 2

○ 調査項目 : 今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当 : 産業政策部    TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4 / 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ ( <http://www.jcci.or.jp> ) でもご覧になれます。

【平成12年7月調査結果のポイント】

業況D Iのマイナス幅2ヵ月連続拡大。なお不安定な景況感

- 7月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、建設業、小売業のほか、特に卸売業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲36.3）より1.6ポイント、マイナス幅が拡大して▲37.9となった。マイナス水準での推移は平成3年4月から112ヵ月連続、また平成3年9月から107ヵ月連続してマイナス2桁水準となっている。今年3月に大幅なマイナス幅の縮小（7.2ポイント）が見られた後、4月、5月と若干の縮小が続いたが、6月には逆に6ヵ月ぶりの拡大となり、7月はさらに拡大が進んだ。2ヵ月連続のマイナス幅拡大は、平成11年6月以来13ヵ月ぶり。卸売業・小売業を中心に業況悪化を訴える声が強く、業況の好転や先行き期待感の指摘も、自動車・電気関連の製造業など一部に見られるものの、足元の景況感はなお不安定な状況が続いている。

建設業では、一部民間設備投資に動きが出始めているとの声が寄せられる一方、「公共工事は発注件数、予算額とも減少し、引き続き厳しい状況が続いている」、「発注の減少により、受注高も激減。経常利益も最悪の状況。業者間の競争もサバイバル化している」といった厳しい状況も多く指摘されている。製造業では、「売上、採算とも低調であり、先行きは不透明で今後の見通しも厳しい。仕事があっても、取引先の値引要求が強くなり採算割れになる」（金属加工機械）、「紙の価格が上昇し、経営を圧迫している」（印刷業）、「海外生産国の生産増加により、内外向けの生産及び販売が低迷している」（金物類）など厳しい状況を訴える声がある一方、「受注が若干ながら好転している」（自動車附属品）、「エアコン関連は今年の猛暑の影響により、前年比を大幅に増加し好調に推移」（計量器測定器等）、「先月と打って変わって、天候良く、物が動き始めた」（水産食料品）などの声も寄せられている。卸売業では、「構造的に地方卸の置かれている立場は厳しい」（総合卸）、「売上は前年比10%減が見込まれ、採算面も好転期待出来ず。諸指標回復の兆しもあるも消費動向依然低迷というのが実感」（食料・飲料）といった従来からの指摘に加えて、「食品業界全般に元気がない」（総合卸）、「生鮮食品は単価が安く売上が伸び悩んでいる」（農畜産水産物）など厳しい業況を訴える声が多い。小売業では、「軽自動車を中心に、若者向け乗用車の売れ行き好調」（自動車）、「気温上昇となり、特に盛夏衣料品の動向が良い」（百貨店）との声がある一方、客数の減少・客単価の下落といった消費低迷の指摘も多く、さらに、「大企業倒産情報等が購買意欲を減退させている」（百貨店）、「食中毒発生以来、乳製品を原料とする製品の売れ行きは、蒸し暑さの時期と重なって最悪の状態」（商店街）といった声も寄せられている。サービス業では、「現在は個人客が中心であり、企業等の団体客は非常に少ない。また、客単価も以前に比べて大変低くなった」（食堂・レストラン）といった指摘がある一方、「前年同月比ではやや好転している。各ホテルとも夏枯れ対策として宿泊客の個人向けプラン商品（ファミリー、女性向け）の販売にしのぎを削っている」（旅館）、「業界としては少し良いムード。夏の活気で車の活動が活発になるので今後期待している」（自動車整備）などの声も寄せられている。

売上面では、全業種において前月水準に比べてマイナス幅が拡大し、全業種合計の売上D Iはマイナス幅が2.4ポイント拡大して▲36.3となった。採算面では、卸売業・小売業・サービス業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことから、全業種合計の採算D Iはマイナス幅が0.9ポイント拡大して▲38.6となった。

- 向こう3ヵ月(8月～10月)の先行き見通しは、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲27.0となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、そごう倒産や雪印乳業食中毒発生の消費等への影響、今後の公共工事発注についての関心が高い。

【業況についての判断】

○ 全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、建設業、小売業のほか、特に卸売業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準(▲36.3)より1.6ポイント、マイナス幅が拡大して▲37.9となった。マイナス水準での推移は平成3年4月から112ヵ月連続、また平成3年9月から107ヵ月連続してマイナス2桁水準となっている。今年3月に大幅なマイナス幅の縮小(7.2ポイント)が見られた後、4月、5月と若干の縮小が続いたが、6月には逆に6ヵ月ぶりの拡大となり、7月はさらに拡大が進んだ。

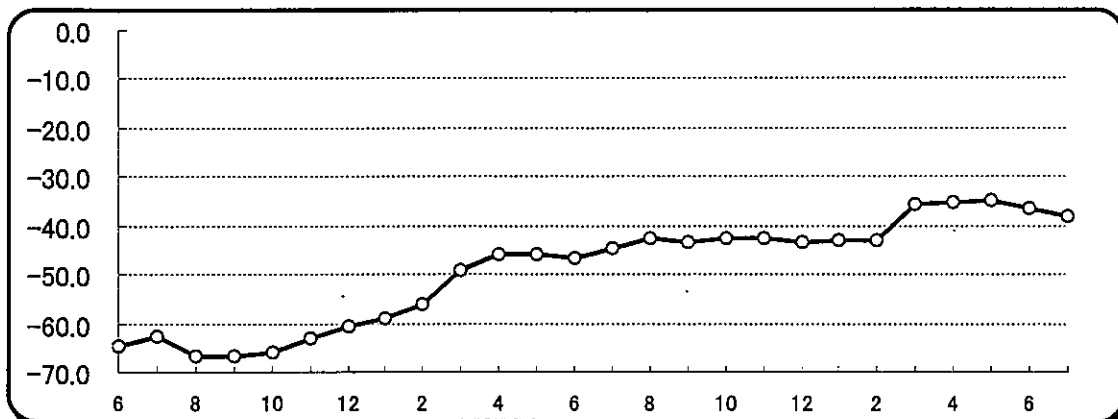
○ 向こう3ヵ月(8月～10月)の先行き見通しは、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲27.0となっている。

業況DI(前年同月比)の推移

	12年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲42.8	▲35.6	▲35.2	▲34.9	▲36.3	▲37.9	▲27.0 (▲29.4)
建設	▲42.9	▲38.7	▲45.7	▲44.5	▲45.1	▲46.7	▲35.6 (▲32.0)
製造	▲32.1	▲26.6	▲24.2	▲26.2	▲26.2	▲23.3	▲20.2 (▲24.6)
卸売	▲45.0	▲40.0	▲36.7	▲40.4	▲37.6	▲46.7	▲27.9 (▲22.6)
小売	▲51.6	▲41.4	▲45.5	▲39.3	▲41.1	▲45.8	▲33.6 (▲37.4)
サービス	▲42.9	▲34.4	▲27.0	▲29.8	▲35.1	▲34.2	▲19.9 (▲25.7)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3ヵ月の先行き見通しDI  
( )内は昨年7月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



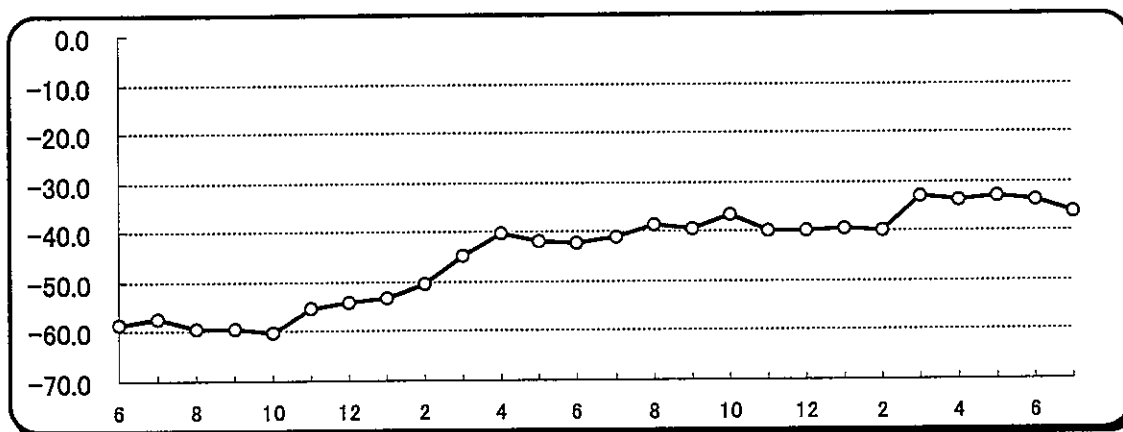
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、全業種において前月水準に比べてマイナス幅が拡大し、全業種合計の売上DIはマイナス幅が2.4ポイント拡大して▲36.3となった。特に卸売業において大幅なマイナス幅拡大が見られる。
- 向こう3ヵ月(8月～10月)の先行き見通しは、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲23.3となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	12年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲ 39.9	▲ 32.9	▲ 33.9	▲ 32.8	▲ 33.9	▲ 36.3	▲ 23.3 (▲ 24.7)
建設	▲ 34.6	▲ 30.5	▲ 38.4	▲ 38.2	▲ 38.9	▲ 39.6	▲ 29.8 (▲ 25.1)
製造	▲ 30.8	▲ 24.4	▲ 20.5	▲ 18.4	▲ 18.5	▲ 19.3	▲ 16.6 (▲ 20.0)
卸売	▲ 45.9	▲ 36.5	▲ 41.0	▲ 40.4	▲ 32.9	▲ 48.5	▲ 26.7 (▲ 19.6)
小売	▲ 46.9	▲ 41.7	▲ 47.5	▲ 44.1	▲ 45.1	▲ 45.9	▲ 29.9 (▲ 34.0)
サービス	▲ 42.4	▲ 31.4	▲ 25.7	▲ 27.7	▲ 33.8	▲ 35.7	▲ 16.6 (▲ 19.8)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



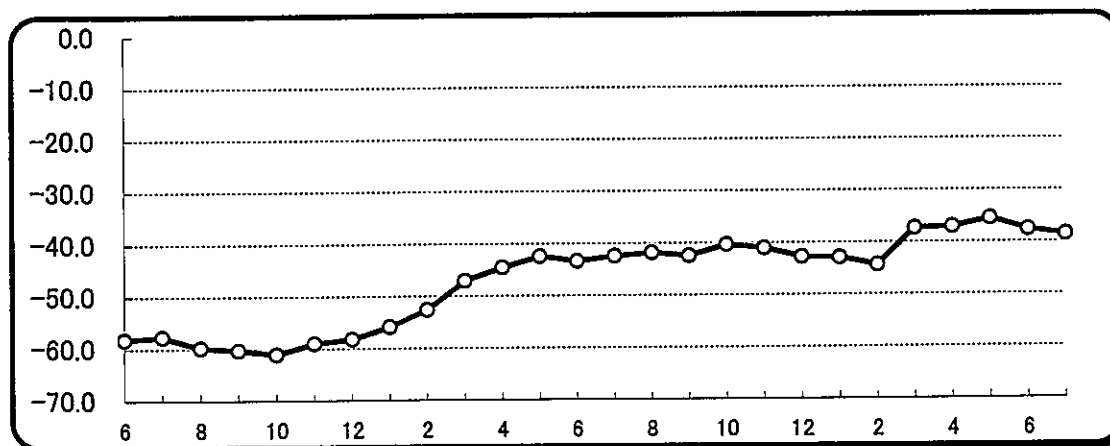
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、卸売業・小売業・サービス業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことから、全業種合計の採算DIはマイナス幅が0.9ポイント拡大して▲38.6となった。
- 向こう3ヵ月(8月～10月)の先行き見通しは、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲28.0となっている。

採算DI(前年同月比)の推移

	12年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲44.4	▲37.4	▲37.1	▲35.5	▲37.7	▲38.6	▲28.0 (▲28.7)
建設	▲47.3	▲43.9	▲46.6	▲48.2	▲50.5	▲46.5	▲38.7 (▲32.0)
製造	▲40.3	▲32.6	▲28.6	▲28.5	▲31.4	▲28.8	▲24.6 (▲27.8)
卸売	▲40.6	▲41.4	▲41.7	▲39.0	▲34.1	▲43.0	▲25.5 (▲24.6)
小売	▲48.4	▲38.9	▲42.6	▲36.9	▲39.1	▲42.6	▲31.2 (▲34.9)
サービス	▲43.6	▲34.7	▲31.5	▲31.3	▲35.5	▲37.0	▲21.3 (▲21.3)

《採算DI(全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

※平成12年7月期から調査実施

	12年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	-	-	-	-	-	▲ 23.6	▲ 20.9
建設	-	-	-	-	-	▲ 30.8	▲ 23.4
製造	-	-	-	-	-	▲ 20.3	▲ 19.2
卸売	-	-	-	-	-	▲ 22.2	▲ 21.1
小売	-	-	-	-	-	▲ 21.6	▲ 21.1
サービス	-	-	-	-	-	▲ 25.2	▲ 20.8

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	12年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	▲ 1.1	▲ 2.0	▲ 0.9	▲ 0.8	▲ 0.2	1.3	▲ 1.8 (▲ 4.4)
建設	0.4	▲ 2.5	1.7	1.3	1.7	0.4	1.8 (▲ 4.3)
製造	▲ 7.7	▲ 8.3	▲ 7.6	▲ 7.4	▲ 7.6	▲ 4.9	▲ 8.9 (▲ 9.5)
卸売	8.7	12.4	7.9	9.6	11.0	7.3	1.2 (0.6)
小売	2.1	2.0	4.0	3.9	4.0	9.2	3.7 (0.4)
サービス	▲ 2.7	▲ 5.8	▲ 4.7	▲ 5.2	▲ 3.0	▲ 3.5	▲ 4.5 (▲ 7.0)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造業、小売業で下落超感強まる。

【先行き見通しD I】建設業以外の全業種で上昇超感強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	12年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲ 16.0	▲ 13.2	▲ 14.8	▲ 13.4	▲ 11.9	▲ 12.0	▲ 12.0 (▲ 11.7)
建設	▲ 24.6	▲ 20.9	▲ 27.2	▲ 25.3	▲ 24.9	▲ 24.2	▲ 20.8 (▲ 17.4)
製造	▲ 19.5	▲ 14.2	▲ 15.6	▲ 13.0	▲ 12.7	▲ 9.8	▲ 14.2 (▲ 16.0)
卸売	▲ 14.5	▲ 17.6	▲ 20.9	▲ 16.3	▲ 10.4	▲ 13.9	▲ 10.7 (▲ 8.8)
小売	▲ 12.6	▲ 10.4	▲ 12.3	▲ 9.2	▲ 8.0	▲ 10.3	▲ 10.8 (▲ 8.9)
サービス	▲ 10.9	▲ 8.2	▲ 6.4	▲ 9.3	▲ 7.2	▲ 7.0	▲ 5.1 (▲ 9.3)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】卸売業・小売業で過剰超感強まる。

【先行き見通しD I】全産業合計では過不足感変わらず。建設業、卸売業、サービス業で過剰超感弱まる見通し。

【平成12年7月の景気キーワード】

○ 競争激化

建設業からは、「発注の減少により、受注高も激減。経常利益も最悪の状況。業者間の競争もサバイバル化している」（堺）、「建築リフォーム業界における受注競争が激化し、見積段階での価格の叩き合いが目立つ。その影響により採算面が悪化傾向となっている」（横須賀）といった声が寄せられている。また、製造業からは、海外からの安価な製品との価格競争等によって売上減との声のほか、「大手住宅メーカーの進出が、地場建築業者の衰退を招いている」（宮崎・建具）などの指摘も見られる。さらに、卸売業・小売業・サービス業についても、「インターネットを利用した通販等が増えてきているため今後の見通しは大変厳しいと思われる」（所沢・総合卸）、「大型店の影響により売上が減るのではないかと心配」（与野・商店街）、「広告業界の競争が激化」（伊那・広告代理）など、顧客獲得競争の激化による採算面への影響を懸念する声が寄せられている。

○ 消費低迷

引き続き消費低迷による売上減を訴える声が多く寄せられているほか、今月発生した百貨店倒産や食中毒事件の消費等への影響を懸念する声が多く寄せられている。「そごうの民事再生手続き開始の影響により、消費低迷が続行することが心配される」（福山・衣服日用品卸）、「そごうの影響で顧客の足が遠のく」（川口・商店街）、「大企業倒産情報等が購買意欲を減退させている」（鹿児島・百貨店）といった声や、「食品業界全般に元気がない」（むさし府中・総合卸）、「食中毒発生以来、乳製品を原料とする製品の売れ行きは、蒸し暑さの時期と重なって最悪の状態」（小野・商店街）といった声が寄せられている。

○ 先行き期待

業況の低迷や先行きの不透明感を訴える声は引き続き多いが、先行きへの期待の声も寄せられている。建設業では、「情報技術関連産業関係の受注に期待」（弘前・電気工事）といった声が、製造業では、「設備投資をするところが増えてきている。残業や休日出勤も増加傾向」（青梅・産業用電気機械）、「やや好転の兆しが見え始めた。受注量も増加してきている。従業員の採用も考えている企業もある」（姫路・暖房装置・配管）など生産量増加の声が寄せられている。また、卸売業では、「進物用の果物が例年より高値で取引されており、今後に期待している。今後の消費の回復に期待」（倉敷・農畜産水産物）との声が、小売業では、「対前年同月比はマイナスだが、この夏の猛暑により、季節商品を中心に後は売上増が見込める」（各務原・百貨店）といった声が寄せられている。サービス業では、「夏休みのシーズンに期待」（和歌山ほか・旅館）、「連日の猛暑により来店客が増えている。今後も期待出来る」（各務原・理容）などの声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
12年 5月	先行き期待	採算面の厳しさ	
6月	先行き期待	競争激化	天候不順
7月	競争激化	消費低迷	先行き期待

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。



(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上DIとも2ヵ月連続でマイナス幅が拡大する一方、採算DIは前月のマイナス幅拡大から反転して縮小となっている。一部民間設備投資に動きが出始めているとの声が寄せられる一方、「公共工事は発注件数、予算額とも減少し、引き続き厳しい状況が続いている」、「発注の減少により、受注高も激減。経常利益も最悪の状況。業者間の競争もサバイバル化している」といった厳しい状況も多く指摘されている。
製 造	業況・採算DIとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小する一方、売上DIはマイナス幅が拡大している。「売上、採算とも低調であり、先行きは不透明で今後の見通しも厳しい。仕事があっても、取引先の値引要求が強く採算割れになる」（金属加工機械）、「紙の価格が上昇し、経営を圧迫している」（印刷業）、「海外生産国の生産増加により、内外向けの生産及び販売が低迷している」（金物類）など厳しい状況を訴える声がある一方、「受注が若干ながら好転している」（自動車附属品）、「エアコン関連は今年の猛暑の影響により、前年比を大幅に増加し好調に推移」（計量器測定器等）、「先月と打って変わって、天候良く、物が動き始めた」（水産食料品）などの声も寄せられている。
卸 売	業況・売上・採算DIとも前月のマイナス幅縮小から反転し、いずれも前月水準に比べてマイナス幅が大きく拡大している。「構造的に地方卸の置かれている立場は厳しい」（総合卸）、「売上は前年比10%減が見込まれ、採算面も好転期待出来ず。諸指標回復の兆しあるも消費動向依然低迷というのが実感」（食料・飲料）といった従来からの指摘に加えて、「食品業界全般に元気がない」（総合卸）、「生鮮食品は単価が安く売上が伸び悩んでいる」（農畜産水産物）など厳しい業況を訴える声が多い。
小 売	業況・売上・採算DIとも2ヵ月連続でマイナス幅が拡大している。「軽自動車を中心に、若者向け乗用車の売れ行き好調」（自動車）、「気温上昇となり、特に盛夏衣料品の動向が良い」（百貨店）との声がある一方、客数の減少・客単価の下落といった消費低迷の指摘も多く、さらに、「大企業倒産情報等が購買意欲を減退させている」（百貨店）、「食中毒発生以来、乳製品を原料とする製品の売れ行きは、蒸し暑さの時期と重なって最悪の状態」（商店街）といった声も寄せられている。
サービス	業況DIは前月水準に比べてマイナス幅が縮小する一方、売上・採算DIはマイナス幅が拡大している。「現在は個人客が中心であり、企業等の団体客は非常に少ない。また、客単価も以前に比べて大変低くなった」（食堂・レストラン）といった指摘がある一方、「前年同月比ではやや好転している。各ホテルとも夏枯れ対策として宿泊客の個人向けプラン商品（ファミリー、女性向け）の販売にしのぎを削っている」（旅館）、「業界としては少し良いムード。夏の活気で車の活動が活発になるので今後期待している」（自動車整備）などの声も寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では、全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別では、北海道・東北・近畿の各ブロックで前月水準に比べてマイナス幅が縮小し、他のブロックで拡大した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（8月～10月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。全ブロックで現状より上向くとの見方になっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

	12年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全 国	▲ 42.8	▲ 35.6	▲ 35.2	▲ 34.9	▲ 36.3	▲ 37.9	▲ 27.0 (▲ 29.4)
北海道	▲ 28.2	▲ 27.5	▲ 36.8	▲ 41.4	▲ 44.4	▲ 40.0	▲ 26.4 (▲ 14.8)
東 北	▲ 35.2	▲ 24.2	▲ 35.5	▲ 33.3	▲ 34.8	▲ 34.4	▲ 26.4 (▲ 23.8)
北陸信越	▲ 35.6	▲ 31.7	▲ 29.9	▲ 31.0	▲ 28.0	▲ 30.4	▲ 21.3 (▲ 34.2)
関 東	▲ 43.2	▲ 37.6	▲ 33.4	▲ 33.7	▲ 34.2	▲ 38.2	▲ 24.5 (▲ 26.7)
東 海	▲ 44.2	▲ 43.3	▲ 36.8	▲ 36.3	▲ 32.2	▲ 37.3	▲ 30.1 (▲ 38.0)
近 畿	▲ 55.4	▲ 42.3	▲ 48.9	▲ 39.7	▲ 47.9	▲ 42.7	▲ 34.3 (▲ 37.0)
中 国	▲ 46.7	▲ 39.8	▲ 33.6	▲ 33.9	▲ 34.1	▲ 34.6	▲ 30.9 (▲ 36.0)
四 国	▲ 60.0	▲ 44.4	▲ 42.1	▲ 40.7	▲ 47.4	▲ 48.1	▲ 26.4 (▲ 23.9)
九 州	▲ 33.7	▲ 24.8	▲ 21.8	▲ 28.4	▲ 27.7	▲ 36.1	▲ 23.2 (▲ 26.0)